

公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター設立 50 周年記念論集

執筆要項

1 本文の体裁

- (1) 1 ページにつき 43 文字×36 行 本文の文字サイズは 10.5 ポイント とする。
- (2) 挿図・図版の 1 ページ内の版面は、縦 23.0cm×横 16.0cm とする。
- (3) 章の見出しは 1、2、3、節の見出しは(1)、(2)、(3)、小見出しは原則として順番は付さない。すべてゴシック体で表記する。
- (4) 挿図は中央下に、「図 1 古墳時代の遺物」のように、表は左上に、「表 1 遺物一覧」のようにゴシック体で表記する。
- (5) 度量衡単位には、cm、m²、kg 等を用いる。
- (6) 本文末尾に(2027 年 8 月 31 日)の要領で脱稿日を記す。
- (7) 注釈の例は以下のとおりとする。

<本文例>

高知県南国市に所在する奥谷南遺跡で局部磨製の石斧の出土が報告され*1、この遺跡ではナイフ形石器文化と細石刃文化段階の遺物が出土しており、さらに隆起線文土器も確認されている。

列島規模で石斧を検討した岡本氏によれば、不動が岩屋遺跡については小形で退化傾向にあるという理由から、神子柴型石斧とは異なるものとしている*2。

*本文の次に

註

*1 この石斧は近世の攪乱層からの出土であるとされ、細石核または尖頭器の一群には伴っていないことが解っている。松村和博氏のご教示による。

*文字は 9 ポイント・リュウミン

- (8) 参考・引用文献の掲載例は以下のとおりである。

<本文例>

列島規模で槍先形尖頭器を考察した藤野氏によれば、中・四国地方において後期旧石器時代後半期（第 III 期：藤野 1989）に所属するものは、羽佐島遺跡（大山ほか 1985）や鷲羽山遺跡（鎌木 1956、山本 1969）などである。

*注釈の次に（注釈がない場合は本文の次に）

参考文献

魚津知克 2017「鉄製農具」『モノと技術の古代史』金属編、pp.101-141

梅木謙一 2001「伊予中部の土器」『庄内式土器研究』XXIV 庄内式土器研究会 113～132頁

*文字は 9 ポイント・リュウミンで、五十音順

(本文案) 14 ポイント・リュウミン→ 愛媛県出土埴輪の基礎的研究 (2)

12 ポイント・リュウミン→ 一特徴的な形態・技法を有する埴輪について—
(1行あけ)

執筆者名・12 ポイント・リュウミン→ 山内英樹

(2行あけ)

1 はじめに ←章立て・10.5 ポイント・中ゴシック BBB

県内の埴輪資料集成とこれまでの出土資料の再検討から、伊予の埴輪における「地域性」抽出を試みる目的で、題目を「愛媛県出土埴輪の基礎的研究」とし、……………

(各章の間は1行あけ)

2 朝倉村・樹之本古墳出土資料について ←章立て・10.5 ポイント・中ゴシック BBB

樹之本古墳は、朝倉村・朝倉下丈六寺に所在する。墳丘については……………

(1) 資料の観察 ←節・10.5 ポイント・中ゴシック BBB

今回観察の対象とした資料は、……………

円筒埴輪・朝顔形埴輪 (第1・2図) ←小見出し・10.5 ポイント・中ゴシック BBB

1・2は「口縁部粘土帯突帯」をもつ破片資料である。1は、……………

本文末尾に脱稿日を記す・リュウミン→ (2002年4月5日)

(本文と註の間は1行あけ)

註 ←9 ポイント・中ゴシック BBB

*1 この他、井出耕二氏による蓋形埴輪の報告があるが(井出1983)、本資料が樹之本古墳出土であることが確認できないため、今回は分析の対象から除いた。 ←9 ポイント・リュウミン

↑ *2行目以降は1字あけ

(註と参考文献の間は1行あけ)

参考文献 ←9 ポイント・中ゴシック BBB

朝倉村教育委員会 1990『古代のあさくら』

池田 学・宮崎泰好 1989「船ヶ谷向山古墳」『松山市埋蔵文化財調査年報監』松山市教育委員会

大久保徹也ほか 1996『四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第25冊 中間西井坪遺跡』(財)

香川県埋蔵文化財調査センター ←9 ポイント・リュウミン

↑ *2行目以降は1字あけ